

# 中国東北地方の農村住居における空間構成の変容と住まい方に関する研究 —カンでの住まい方と厨房と動線の変容—

## A study on the transformation of space composition of farm houses and lifestyles in northeast China

棒田 恵\*3 西村 伸也\*1 林 文潔\*2 門岩 由布子\*4 工藤 裕\*5 後藤 洋平\*5  
Satoshi Boda\*3 Shin-ya Nishimura\*1 Lin Wenjie\*2 Yuko Kadoiwa\*4 Yu Kudo\*5 Yohei Goto\*5

中国の農村住居は、伝統的な南カン住居から変化し、多様な空間構成が見られる。北カン・中カン住居といった新しいカン形式への変化がみられ、同時に南カン住居も建設されている。カンの変化に伴い厨房も変化しており、室として独立する住居、動線から分離する住居がある。また、カンの位置、カンへの認識により、厨房と接客動線が分離型、回避型、区別型の特徴を有していることを明らかにした。

**Keywords** northeast China, kang, farm house, kitchen, space of flow line

中国東北地方 カン（炕） 農村住居 厨房 動線

### 1. 研究の背景と目的

近年、中国の都市部ではめざましい経済発展と共に大規模な住宅開発が進められ、農村でも新築住居が建設されており、多様な住居が現れてきている。その一方で、中国東北地方の農村住居では、増築・改築を行いながらも寒冷地方の伝統的暖房方式である「カン（炕:kang）」を残し、現在でも「カン」を生活の中核とする住居が残っている。本研究は、「カン」のある農村住居について調査を行い、空間構成の変容と住まい方への影響を明らかにすることを目的とする。

### 2. 調査概要

調査は2006年、2007年に遼寧省大連市旅順口区（fig.1）で23軒の農村住居を対象として、実測調査による住居平面・家具配置の採取、および住まい方に関するヒアリング調査を行った。また、過去に行われた中国東北地方（大連市金州区、凌水鎮、旅順口区、普蘭店、哈爾濱市）の農村住居のデータを比較対象としている（fig.2）。

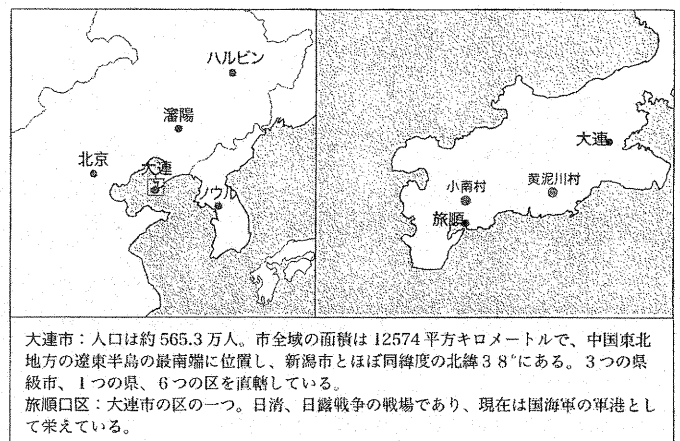


fig.1 調査対象地域

調査対象住居	調査時期	住戸数	記号
旅順口区・農村住居	2006年7月、2007年9月	23	Lu0601-Lu0711

比較対象住居	調査時期	住戸数	記号
金州区・農村住居	1993年9月、1994年12月	23	K9301-K0006
凌水鎮・農村住居	1993年9月、1994年12月、2000年12月	27	Li9307-Li9433
哈爾濱市・農村住居	2001年8月	25	H0101-H0125
旅順口区・農村住居	2000年12月、2005年9月	5	Lu0007-Lu0513
普蘭店市・農村住居	2005年9月	11	P0501-P0511

fig.2 調査対象住居と比較対象住居

\*1 新潟大学工学部 教授・工博 Prof., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

\*2 北方工業大学建築工程学院 講師・工博 Lecturer, College of Architecture and Civil Eng., North China Univ. of Technology, Dr. Eng.

\*3 新潟大学大学院 博士後期課程・工修 Graduate school of Eng., Niigata Univ., M. Eng.

\*4 岡村製作所 工修 OKAMURA CORPORATION. M. Eng.

\*5 新潟大学大学院 博士前期課程 Graduate school of Eng., Niigata Univ.,

### 3. 中国東北地方の農村住居の概要

#### 3-1 カンについて

カンは、床の一部に煉瓦を積みできた空洞に調理時の排煙を通して暖房する設備である。カンは、レンガやセメント、近年ではプレキャストコンクリートによって作られ、大きさはそのほとんどの広さが300×200cm、高さが70cmであるが、小さいものも見られた (fig.3、fig.4)。燃料は、石炭、薪などで、庭にある物置等におかれている。カンの下には、特に寒い日のための補助用のカマドやカンに座するための下足用の棚がある。カンは、10月から翌年4月まで暖房として用いられるが、夏でもカンの湿気を飛ばすために10分程度暖められる。近年、ラジエータが普及しているが、高齢者を中心に、体の健康のためカンを併用する住居がある。

#### 3-2 瓦房の構成

調査住居の多くは3室を持ち、1つのカマドに対して一世帯が住んでいる。住居の構成は、カマドのある厨房（外地）と南側にカンをもった居室（東屋、西屋）とで構成されている (fig.5)。カンのカマドに近い場所が十分なカンの機能を持っているために厨房を中央に設置する住居が多い。さらにカマドに一番近い東側の部屋（東屋）が主人夫婦の主要な居室となる (fig.6)。

#### 3-3 カンと住まい方

主人夫婦のカンは家族の中心の場かつ接客の場としても利用される。さらに、就寝、子どもの勉強や餃子作りなどの炊事にも使用される (fig.7)。冬期の食事は、カンの上でカン卓とよばれる小さなテーブルを置き平座で行われる。また、夏期の食事はカンの上で行われることもあるが、厨房にあるテーブルとイスあるいはカン卓と小板凳と呼ばれる小さなイスを用いて行われる (fig.8)。

### 4. 新築住居における空間構成の変化

#### 4-1 カンの位置の変化

新築住居では、カンの一住戸あたりのカンの数は減り、北にカンを設置する北カン住居、北に厨房を設けその南側にカンを設置する中カン住居が出現している。カンの位置により新築住居を3つのタイプ（南カン厨房独立住居・北カン住居・中カン住居）に分類できる。新築住居では南窓下に設置されていたカンは室の奥の北側に移行する。南窓下にはイス・机・電話等が置かれ、東側壁面には洋服ダンス・ミシン・テレビ化粧台が列に並ぶ。このカンの北側への移行に伴い、カマドの位置もそれまでの入り口脇から瓦房の奥に移行する。伝統的な外地は、手前の南側が厨房・奥の北



fig.3 カン

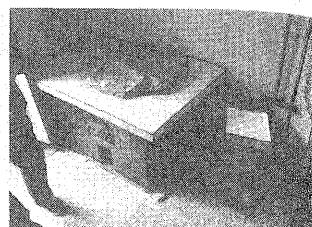


fig.4 外地にあるカマド

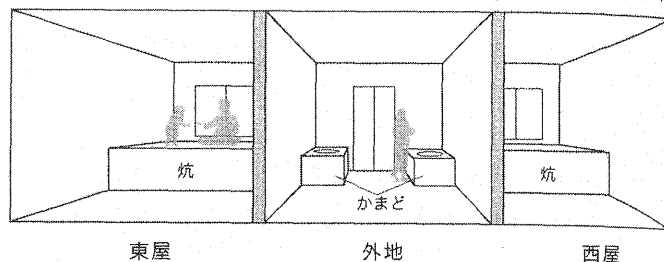


fig.5 カンとカマドの関係

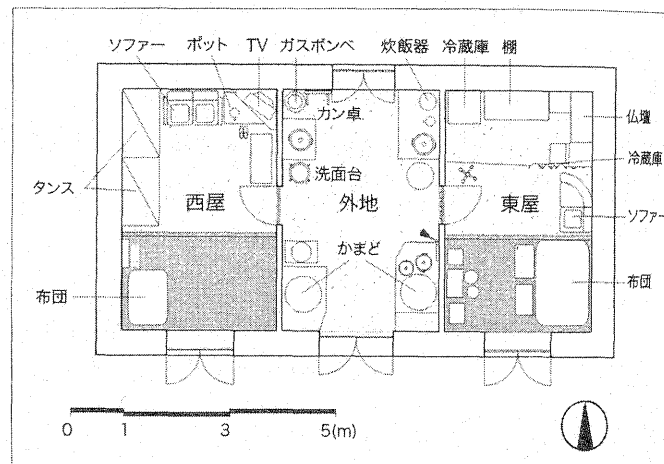


fig.6 伝統的な農村住居（3列構成）

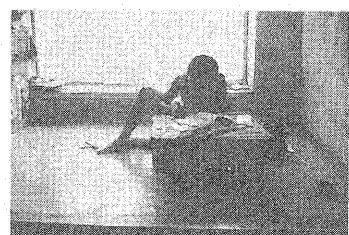


fig.7 カン上での勉強



fig.8 小板凳とカン卓での食事

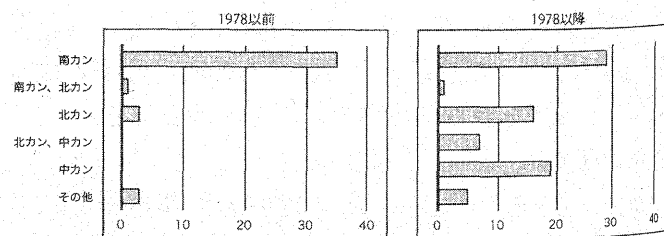


fig.9 カン位置の変化

側が食材庫として使われていたが、奥の北側にカマドが置かれ厨房と隣室のカンを暖める。手前の南側は方庁として入口空間となり、同時に食事の場が下足用の空間である方庁や厨房に設けられる。

1978年以前に建設される住居はほとんどが南カンであり、1978年以降に建設される住居は北カン・中カンの形式が多く建設されている。しかし、南カン住居も厨房を変化させ、新築されている (fig.9)。

## 4-2 厨房の分離と専用室の発生

南カン住居では、新築あるいは増改築時に厨房と北側の場所に間仕切りを設け、厨房を分離させている。住居北側には接客・食事の場である客厅・餐厅がしつらえられる。北カン住居では、カンとカマドを北側に移行し厨房を分離させ、住居南側に方厅と呼ばれる室をしつらえている。

## 4-3 厨房の変形と移動

### 1) 厨房の変形と臥室北側への移行

北カン住居の厨房は、その変形によって衛生間や倉庫、臥室をしつらえる。そして、変容が進むと厨房は主に臥室北側に移行し、北側の外壁に接することのない中カン住居が現れる。

### 2) カマドの独立と移動

伝統的農村住居ではカマドが中央の入口空間に2つ設置されていたが1つになり、さらに厨房が縮小する。カマドがあった部分には走廊・衛生間をしつらえる。また、増改築により、中央列が走廊・客厅となり、設置されていた2つのカマドが東側あるいは西側に移行させ、厨房を独立させている。

## 4-3 サービス動線の充実

動線空間と専用室としての分化が明確になる。新築住居では、方厅・走廊がサービス動線としてしつらえられ、主臥室や臥室、客厅、餐厅、厨房や衛生間がそれらサービス動線によって区切られ、つながれる。また、南カン独立住居では、厨房の縮小・独立により、厨房隣には走廊などの移動空間が設置され、住居北側の客厅、餐厅へつながれる。

## 4-5 厨房の独立と動線からの分離

新築住居では、厨房が方厅・客厅・餐厅から分離した室となる。新築の南カン住居では、カマドが南にあるため、入口空間の厨房に多く変化がみられる。変容が進むとカマドを移動させ走廊としたことで、厨房と動線空間を分離している。北カン・中カン住居では、北にカンとカマドを移動したことにより、厨房を独立させ動線空間を住居南側に確保し、分離している。このように、カンの位置が多様に変化しており、同時に厨房の独立、厨房と動線の分離が共通の変化として現れている (fig.10)。

## 5. カン上の住まい方の変化

伝統的農村住居でカンの上で行われていた接客・就寝・接客が、新築住居では方厅・厨房・客厅などに分散しており、住居タイプ毎に夏・冬の住まい方が異なる。住居内で行われる生活行為を夏・冬に分け、分析を行う (fig.11)。

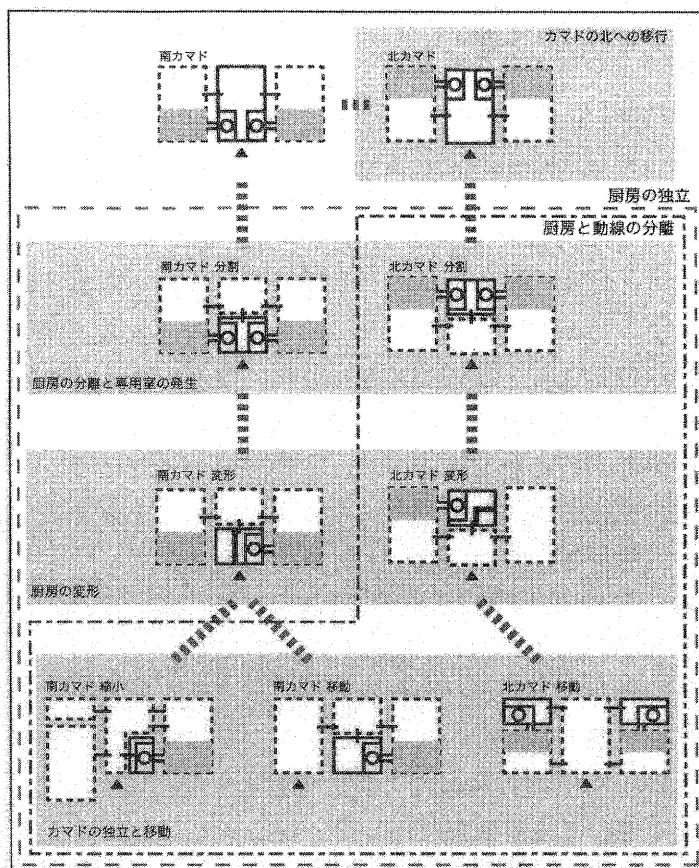


fig.10 厨房の独立と動線からの分離

生活行為の表示方法	
夏 (非暖房時) の生活行為	冬 (暖房時) の生活行為
寝 就寝	顔 顔洗い
炊 炊事	足 足洗い
顔 顔洗い	野 野菜洗い
足 足洗い	洗 洗濯
野 野菜洗い	居 居場所 (目的なく居る場所)
洗 洗濯	食 食事
居 居場所 (目的なく居る場所)	着 着替え
食 食事	浴 入浴・沐浴
	餃 餃子づくり (家族の共同作業)

fig.11 生活行為の凡例

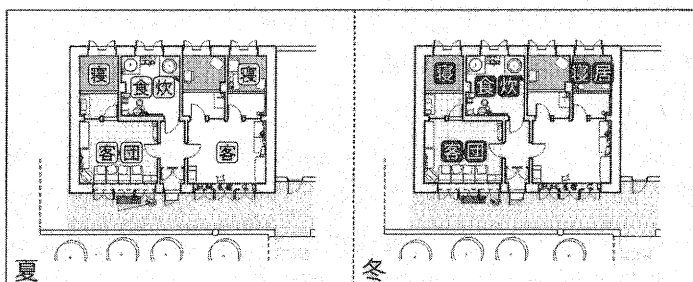


fig.12 北カン住居

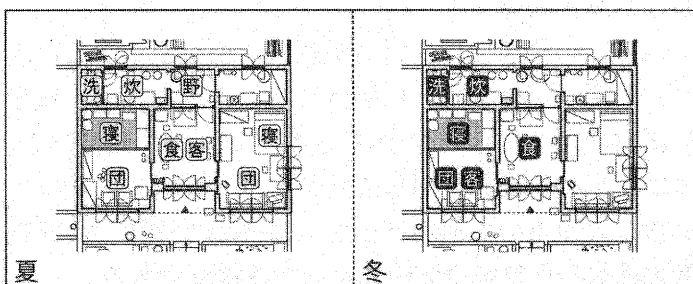


fig.13 中カン住居

## 5-1 カン上の生活の変化

### 1) 北カン住居の住まい方 (fig.12)

北カン住居では、夏の生活行為は、各室に分布しており、北に配置されたカンでは就寝以外の生活行為が

ほとんどない。逆に南側に位置している客厅で接客・団らんが行われている。冬の生活行為は、ほとんど変化がない。そのため、各室が専用の室として使われるようになる。

## 2) 中カン住居の住まい方 (fig.13)

中カン住居では、夏の生活行為は各室に分布している。接客・食事は方庁で行われ、カン前の空間にはソファが設えられており、団らんが行われる。冬の生活行為は夏とほぼ変わらないが、接客がカン前のソファで行われる。カン上は、北カンと同じように就寝のみが行われている。北カンの住居のようにカンの室を就寝の専用室としていないが、カン上とカン前での生活行為の区別がはっきりとされている。

## 3) 南カン厨房独立住居の住まい方 (fig.14)

新築の南カン住宅では、住居北側に客厅が設けられ、夏の食事・接客が行われる。カン上では、主人夫婦の就寝・団らんが行われる。しかし、冬には接客・食事といった生活行為もカンの上で行われることになり、夏と冬で生活の場が変化している。

北カン・中カンでは、カンを従来のように接客・食事などの行為をすることがなくなり、カンを就寝の場として捉え、カン上での住まい方が変化していることがわかる。しかし、南カン厨房独立住居のように客厅が設けられたとしても、冬にはカンの上を中心に生活をしており、カン上での住まい方は変化していない。このように夏・冬の住まい方から南カン厨房独立住居と北カン・中カン住居のカンへの認識の違いがわかる。

## 5-2. 厨房空間と接客動線

### 1) 分離型動線

北カン・中カン住居では、北に厨房が設置され、接客空間が住居南に設置されるために、接客動線と交わることがない。カンの寝室化に伴うカン・厨房の北への移行と同時に接客空間と厨房を分離している。

### 2) 回避型動線

南カンの住居では、厨房が独立し縮小することにより、走廊が設けられ、住居奥に設けられる客厅・餐厅に厨房を通らずにアクセスできるようになっている。つまり、接客動線が厨房を回避する空間構成となっている。カンでの生活を行いさらに客厅の設置、動線空間の確保など接客空間の充実を図る構成である。

### 3) 区別型動線 (fig.15)

伝統的な農村住居を増改築することにより厨房が住居西側へ移動する。そのため厨房と客動線が分離し、同時に生活動線と接客動線も分離している。接客動線は中央列からカンのある西側の室にとられるために厨

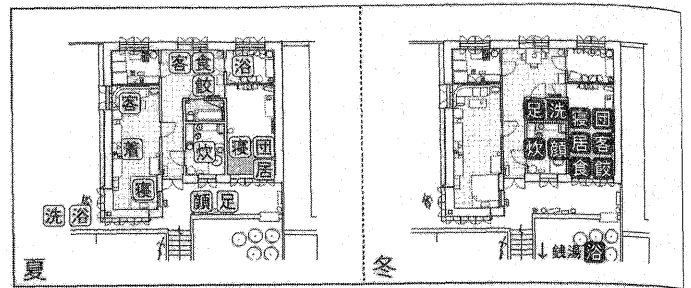


fig.14 南カン厨房独立住居

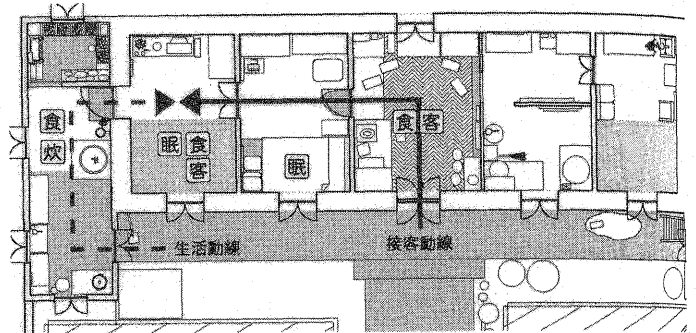


fig.15 増改築による住まい方の変化

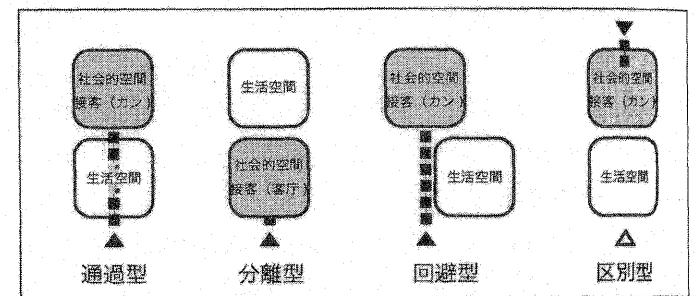


fig.16 厨房と接客動線の関係

房を通らずに接客空間にアクセスできる。さらに西側に厨房を増築した際に外部からの入口も設けていることで、カンのある西側の室を主要な生活空間とし、伝統的農村住居の生活を行いながら生活動線と接客動線を区別する構成をしている。

接客動線と厨房は分離されていく傾向にあり、その中でも、住民のカンへの認識の違いにより、カンの構成が変容し、厨房と動線空間に分離型、回避型、区別型という特徴がみられた (fig.16)。

## 6. まとめ

中国の農村住居は、伝統的な形式から変化しており、多様な空間構成が見られる。南にカンを設置する伝統的な形式から、北カン・中カン住居といった新しい形式への変化がみられたが、同時に南カン住居も建設されている。カンの変化に伴い厨房も変化し、さらに厨房が接客動線から分離し、外部化されている。この外部化は、カンの位置、カンの認識の違いにより、通過型、分離型、回避型、区別型の違いが見られることが明らかになった。これらは、伝統的なカンの形式を保持し、近年の住要求に対して変化した形式だと考えられる。